

		代替施設 南側配置	代替施設 北側配置
浦添市検討配置案			
		※関係機関と調整前の資料であるため、施設規模・形状は確定したものではない	※関係機関と調整前の資料であるため、施設規模・形状は確定したものではない
評価項目	港湾機能	1.代替施設を第 3 ステージの北側に配置することで、民港を管理運営する上で支障がない 2.航路幅として、440m（代替施設からの制限水域 50m＋クルーズ船（22 万 GT 級）の船長 360m（1L：一般的な船舶の行き会いを想定する航路幅）＋防波堤からの余裕幅 30m）を確保することで、民間船舶の航行に及ぼす影響はない 3.西海岸道路への接続位置を工夫することによって、港湾関連車両と米軍関連車両の動線を分離して通行の錯綜を避けることで、港湾物流機能の支障とならない	1.民港と代替施設が分離して配置されるため、経済的一体の港湾として民港を管理運営する上で支障がない 2.代替施設の岸壁から 50m が制限水域として提供されるが、民港と代替施設が分離しているため民間船舶の航行へ影響はない 3.代替施設に接続する進入路を港湾関連用地として分離して配置できるため、港湾関連車両と米軍関連車両の通行が錯綜せず、港湾物流機能の支障とならない
	環境	1.民港施設の一部（例えばクルーズバス）を北側に配置せざるを得ないため、その施設配置によって潮流が遮断され、海浜前面での水質汚濁などの影響が予想される。なお、構造形式を工夫することによって、その影響を軽減することは可能と思われる	1.北側に代替施設が配置されることによって、潮流が遮断され、海浜前面での水質汚濁などの影響が予想される。なお、構造形式を工夫することによって、その影響を軽減することは可能と思われる
	安全	1.クルーズ船や貨物船など民間船舶の航路・回頭水域と米軍関連船の航路・回頭水域は一部重複する可能性があるが、航行安全へ影響がない（代替施設の配置を工夫することで、その影響をなくすことができる） 2.小型船だまりを利用する小型船の航路と、クルーズ船や米軍関連船の航路・回頭水域が重なる可能性が高く問題がある。なお、小型船だまりの配置を工夫することで、問題を解消することは可能と思われる 3.西海岸道路への接続位置を工夫することによって、港湾関連車両と米軍関連車両の動線を分離して通行の錯綜を避けることで、陸上交通安全面の問題がない	1.クルーズ船や貨物船など民間船舶の航路・回頭水域と米軍関連船の航路・回頭水域は一部重複する可能性があるが、航行安全へ影響がない（代替施設の配置を工夫することで、その影響をなくすことができる） 2.小型船だまりを利用する小型船の航路と、クルーズ船や米軍関連船の航路・回頭水域が重なる可能性が高く問題がある。なお、小型船だまりの配置を工夫することで、問題を解消することは可能と思われる 3.民港と代替施設が分離しており、代替施設に接続する進入路が港湾関連用地と分離して配置できるため、港湾関連車両と米軍関連車両の通行が錯綜せず、陸上交通安全面において問題がない
	防災	1.耐震強化岸壁と代替施設が隣接し、災害時において、水域では緊急物資輸送船と米軍関連船舶が錯綜し、安全面に懸念がある	1.耐震強化岸壁と代替施設は分離されているが、災害時において、一部の水域で緊急物資輸送船と米軍関連船の通行が錯綜すると懸念される
	観光・交流・レジャー	1.クルーズ岸壁が貨物岸壁・代替施設岸壁と分離されるが、クルーズ船関連の人流動線と車両動線の分離を行うための安全対策が必要となる 2.クルーズ船岸壁に隣接したエリアには商業施設が立地し、アクセスが容易である 3.小型船だまりは湾奥に配置されることから、プレジャーボートは全ての船舶と通行が錯綜すると懸念される	1.クルーズ岸壁が貨物岸壁・港湾関連用地と隣接することから、クルーズ船関連の人流動線と車両動線の分離を行うための安全対策に加え、クルーズ船関連の人流と車両が貨物岸壁・港湾関連用地への進入を制限する安全対策が必要となる 2.クルーズ船岸壁に隣接したエリアにはコンテナが立ち並び、クルーズ船から降り立った時の印象は好ましくない。なお、隣接したエリアとの間に緑地帯を設ける等の工夫をすることにより軽減できると考える 3.小型船だまりは湾奥に配置されることから、プレジャーボートは全ての船舶と航行が錯綜すると懸念される
	景観・眺望	①代替施設は概ね見えない ②代替施設は見えない ③マリナーの西方向に代替施設が存置する ④マリナーの西方向に代替施設が存置する ⑤ビーチの西方向に代替施設が見える	①代替施設は概ね見えない ②代替施設は見えない ③マリナーの北西方向に代替施設が存置する ④ビーチの西方向にクルーズバスが存置する ⑤ビーチの北方向から北西方向に代替施設が見える
	浦添市西部開発としての関連性	1.大型商業施設等が牧港補給地区跡地利用の中心部に位置する立地複合交流拠点、コースタルリゾートゾーン及びクルーズバスを一体的に配置することで、相乗効果によるポテンシャル最大化に寄与する 2.市の東西軸であるシンボルロードと臨海部を南北に結ぶ西海岸道路の結節点にリゾート関連施設を集中配置することで、浦添の顔として特色ある西部開発に寄与しうる	1.代替施設進入路がコースタルリゾートゾーンを縦断することとなり、複合交流拠点及びコースタルリゾートゾーンのポテンシャル低下が懸念される 2.市の東西軸であるシンボルロードと臨海部を南北に結ぶ西海岸道路の結節点にリゾート関連施設を集中配置することで、浦添の顔として特色ある西部開発に寄与しうる
	環境保全	1.クルーズ岸壁は「自然的環境を保全する区域」に隣接する海域を改変することとなるが、代替施設に比べその規模は小さい。大規模な土地造成を伴う代替施設に比べ、潮流等の自然環境への影響が少ない構造形式も検討の余地がある（構造形式によっては静穏度を確保するため、防波堤が必要になる場合がある）。浦添市では里浜条例の施行を目指しており、周辺の環境変化を最小限に抑えることは条例の趣旨と合致する 2.クルーズ岸壁は社会情勢の変化に対応しながら段階的に整備する等、環境面への負荷を考慮する余地がある	1.49ha の代替施設用地を確保するため、「自然的環境を保全する区域」に隣接する海域を改変することとなる。埋立てによる潮流等の「自然的環境を保全する区域」への影響は、クルーズ岸壁に比べ軽減できる余地が少ないと思われる。ただし、両案で代替施設等の規模は変わらないことから、埋立て等により環境への影響が生じることには変わらない 2.代替施設は環境への影響等の状況について勘案しながら、一体的に整備することが求められる
	陸上交通	1.発生が集中するクルーズ船関連車両（バス等）、物流関連車両、米軍関連車両の3つの動線を分離できる	1.発生が集中するクルーズ船関連車両（バス等）、物流関連車両、米軍関連車両の3つの動線を分離できる
総合評価		上記9項目を総合的に勘案すると浦添市西部開発に与える影響・支障は小さい 「観光・交流・レジャー」及び「浦添市西部開発としての関連性について」のまちづくりの視点から勘案すると南側案が優位	

A：浦添市西部開発に与える影響・支障がない　B：浦添市西部開発に与える影響・支障が少ない　C：浦添市西部開発に与える影響・支障がある